

# 令和4年度

## 北薩地区道徳教育研修会 ～本校の道徳教育の概要～

さつま町立宮之城中学校

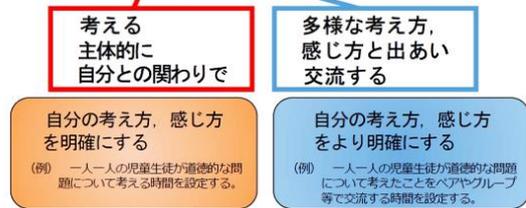
### 1 本校における授業体制

#### (1) 「考え、議論する道徳」の授業

「特別の教科」として位置付けられた道徳の時間が平成31年度(令和元年度)より全面实施となった。

「考え、議論する道徳」では、まず自分で考え、そして他者の意見と自分の意見の交流をはかり、多様な考え方にふれ・議論する。そして、生徒自身の考えに変容がみられたり、考えをより深めたりすることで、生徒1人ひとりのよさを伸ばし、成長を促す授業への転換が示された。

#### 考え、議論する道徳



#### 宮之城中学校では

それぞれの教師のよさや工夫をいかした授業を展開

本校の授業体制 (参考: 県教育委員会リーフレット)

#### (2) 道徳の時間の実際 (宮之城中学校 授業モデルより)

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点●と評価(◎)
見通す (導入)	<p><b>【目標の明確化】</b></p> <p>① 主題に関わるめあてを知る。 【道徳的価値の意味や意義の確認】</p> <p>② 資料を読む(見る,聴く)。</p> <p>③ 資料における道徳上の問題の状況をつかむ。</p> <p><b>学習課題・めあて</b> 考えさせたい道徳的価値につながるように設定する。</p>		<p>① 主題に関わる問いをする。 ・アンケート結果などを用いる。</p> <p>② 教科書,写真,動画,スライドを提示する。</p> <p>③ 問題となる道徳的価値を意識して学習をすすめられるようにする。</p> <p><b>教師視点の本時のゴール</b> 「まとめ」との整合性があるように設定する。</p>
学び合う (展開)	<p><b>【子どもが主役となる学び合い】</b></p> <p>④ 友達の考え方や全体の考え方を確認する。 【考えの可視化】</p> <p>⑤ 互いの考えとその理由を伝え合い意見を交流する。【話し合い[ペア・グループ]】</p> <p>⑥ 多様な考えや意見にふれ,全体としてまとめたり,意見を対立させたりしながら全体でまとめる。 【話し合い[全体]】</p>		<p>④ 自分の意見や考えを記述したり,説明したりできるようにする。</p> <p>⑤ できるだけ多様な考えにふれさせ,意見を類型化したり,議論したりしながら吟味させる。</p> <p>⑥ ペアやグループで吟味された考えを聴き,さらに多面的・多角的に考えることが出来るように工夫する。(板書の工夫)</p>
深める (終末)	<p><b>【ラスト10分の充実】</b></p> <p>⑦ 人間としての生き方について考え,これからの自己を見つめる。</p> <p><b>まとめ</b> 授業を通して学んだことや,これからの自己について記述する。</p> <p>⑧ 授業について,自己評価する。</p>	10	<p>⑦ 主題に照らして,これまでの自己を振り返り,これからどのように生活していくか考えさせる。 ・学んだことについて ・これまでの自分と今後の自分について ・考えの変化について</p> <p>⑧ これからの道徳的実践につなげる。</p>

#### さつまの【3構え】

- 【身構え】 姿勢,発表の仕方,話の聞き方の学習のしつけができているか。
- 【心構え】 授業に対する意識・準備に対する指導ができているか。
- 【物構え】 机上の学習用具の準備や整理の指導はできているか。

### (3) 授業担当の型

本校では、「学級担任主導型(従来型)」に加え、学級担任が教材を1つずつ担当し、クラスを回って授業をする「ローテーション型」での授業を取り入れている。

しかし、どちらの授業体制においても、一長一短があり、それに対応するため、ローテーション授業の回数やタイミング、ローテーションの方法などは、各学年の実態に応じ、柔軟な形で行っている。



ローテーションでの授業の様子

#### ～ローテーション型のメリット～

- ・ 授業の改善をいかせる
- ・ マンネリの授業にならない
- ・ 教材研究の労力の軽減
- ・ 多様な意見や考えにふれられる
- ・ 生徒の多様な姿の発見

#### ～ローテーション型のデメリット～

- ・ 普段の授業で担当していない学級での授業での生徒への対応に不安
- ・ 授業の展開が教師によって異なる
- ・ 学級のタイムリーな問題に対応した道徳の授業がしづらい

#### ～ 学年の実態に応じたローテーション授業 ～

- 学級担任でのローテーションを複数回実施
- 学級担任が2回、学年所属の教員が1回ずつの計4回のローテーションを実施
- 学年所属の教員で、ほとんどすべての授業をローテーションで実施

## 2 GIGA スクール構想と関連した取組

### (1) 職員研修

本校では、昨年度のはじめから計画的に、GIGA スクール構想に向けた職員研修を行ってきた。

具体的には、講師を招き、「ロイロノート・スクール」や「Microsoft Teams」の使用法などを学ぶ機会を設けた。

さらに、先行してタブレット端末を活用した授業を取り入れている教員が、使用法や授業での活用例などを紹介したり、活用するうえでの疑問点を解決したりするなどの研修を行った。



職員研修の様子

### (2) 新型コロナウイルス感染症対策による分散登校

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、3密を避けるために、昨年度3学期に分散登校を行った。具体的には、クラスをA・Bの2つのグループに分け、日ごとに交互に登校し、一方のグループが登校しての授業日であれば、もう一方のグループは自宅でリモートによる授業に参加するという方法で実施した。

ほとんどの教科でリモート授業が行われ、道徳の授業も同様にリモートで実施した。



分散登校中の授業の様子



## 4 評価に関する共通理解

学籍				道徳評価【宮中バージョン③】							
				道徳評価 【A+B】or【A+C】		A おおくりな授業評価		B 学習に関するエピソード評価			C 学
学年	組	番号	名前	道徳評価	選択番号	おおくりな授業評価	教科名	選択番号	エピソード	学習に関するエピソード評価	エピソード
		4		道徳の授業を通して、他者の考えに左右されないことができるようになりました。また、「あなたはひかり」の学習では、生命の尊さについて理解し、かけがえのない生命を尊重することについて、より深く考えることができました。	46	道徳の授業を通して、他者の考えに左右されないことができるようになりました。	あなたはひかり	19	生命の尊さについて理解し、かけがえのない生命を尊重する	また、「あなたはひかり」の学習では、生命の尊さについて理解し、かけがえのない生命を尊重することについて、より深く考えることができました。	
		5		道徳の授業を通して、往來の他者になったつもりで考えることができるようになりました。また、「古柳の庭、深子の心」の学習では、日本の伝統と文化を尊重し、国を愛する気持ちをもつことについて、より深く考えることができました。	52	道徳の授業を通して、往來の他者になったつもりで考えることができるようになりました。	古柳の庭、深子の心	17	日本の伝統と文化を尊重し、国を愛する気持ちをもつ	また、「古柳の庭、深子の心」の学習では、日本の伝統と文化を尊重し、国を愛する気持ちをもつことについて、より深く考えることができました。	
		6		道徳の授業を通して、自分の考えとともに、他者の考えも尊重することができるようになりました。また、「どうせ無謀」という言葉に負けない」の学習では、真理を探究して新しいものを生み出すと努めることについて、より深く考えることができました。	25	道徳の授業を通して、自分の考えとともに、他者の考えも尊重することができるようになりました。	「どうせ無謀」という言葉に負けない	5	真理を探究して新しいものを生み出すと努める	また、「どうせ無謀」という言葉に負けない」の学習では、真理を探究して新しいものを生み出すと努めることについて、より深く考えることができました。	
		7		道徳の授業を通して、自分と異なる考えの人の話を素直に聞くことができるようになりました。また、「どうせ無謀」という言葉に負けない」の学習では、真理を探究して新しいものを生み出すと努めることについて、より深く考えることができました。	23	道徳の授業を通して、自分と異なる考えの人の話を素直に聞くことができるようになりました。	「どうせ無謀」という言葉に負けない	5	真理を探究して新しいものを生み出すと努める	また、「どうせ無謀」という言葉に負けない」の学習では、真理を探究して新しいものを生み出すと努めることについて、より深く考えることができました。	
		8		道徳の授業を通して、自分の考えを大事にし、考えをほっともちょうこができるようになりました。また、「朝市の「おはようございます」の歌	40	道徳の授業を通して、自分の考えを大事にし、考えを	朝市の「おは	7	時と場に応じた適切な言	また、「朝市の「おはようございます」の学習では、時と場に応じた適切な言動をとる	

### 宮之城中学校の道徳評価システム

#### (1) 評価の構成

「大きくりのまとまり」を意識した評価は、授業の積み重ねによる成長を捉えられる半面、個人差を表現しづらく、その子らしさが伝わりにくいものになってしまうため、「大きくりのまとまり」の評価に続き、「学習の様子やエピソード」を具体的に記述する2文構成としている。

基本的には、「A おおくりの授業評価」に「B 学習に関するエピソード評価」を加えたもの、または「A おおくりの授業評価」に「C 学校生活に関するエピソード評価」を加えたものとしているが、担任による柔軟な記述評価も可能としている。

#### (2) 評価の材料

- ア ポートフォリオ・・・ワークシートのファイリング  
・・・授業の感想等の把握
- イ 自己評価・・・生徒自身が授業ごとに行う
- ウ エピソード・・・生活の様子や言動を見取る
- エ アンケート・・・キャリアパスポート等を活用

#### ～授業の振り返り[自己評価]例～

- ア 教材について、興味をもって取り組めたか？
- イ 自分の考えを伝えることができたか？
- ウ 友だちの考えを聴くことができたか？
- エ 授業の内容について、深く考えることができたか？

## 5 研究授業・授業研究での取組



### 研究授業

授業者に焦点をあてた参観をするのではなく、生徒の学習の様子や学習状況を見取る。



### 授業研究・研究協議

授業研究や研究協議では、見取った生徒の様子を基に授業の流れの改善点や発問、手立てなどの改善点を探る。